

(5) キャリア教育・啓発活動

■ ランチョン・トーク

研修医や医学科・看護学科学生を対象に、身近な先輩医療職をロールモデルとして自分のキャリアやライフプランを具体的に描く機会を提供するための企画として、「ランチョン・トーク」を毎月1回実施しました。毎回学内の先輩教職員をゲストに迎え、一緒にランチをとりながら自由な雰囲気の中で先輩のキャリア観、結婚観や家庭観などについて語り合いました。

第1回 「仕事もライフも、欲張りに楽しもう」



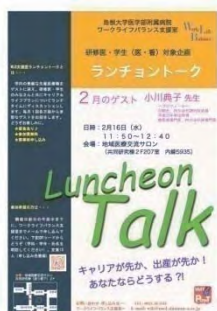
平成23年1月26日
22名参加
(医17名)

内田伸恵WLB支援室室長
(がん放射線治療教育学教授)

<参加学生からの感想>

- ・堅苦しくなく、とても良い雰囲気だったのでまた参加したいです。
- ・この取組から、学生のリーダー的な人、WLB支援に理解のあるDrが増え、輪が広がるといい。
- ・男性も気軽に参加できる工夫も必要だと思います。
- ・昼休みという時間設定がすごく魅力的だった。充実した内容だった。
- ・先輩方のお話を聞くのが本当に楽しかったのもう少し時間を長くできたらうれしい。
- ・より時間のとれる夕方にお茶でも飲みながらゆっくりお話していただきたいです。
- ・家事重視(時短)な働き方をしておられる方の話も聞きたいです。

第2回 「キャリアが先か、出産が先か！ あなたならどうする?!」



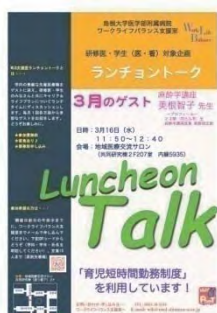
平成23年2月16日
20名参加
(医16名)

小川典子先生
(内分泌代謝内科医員)

<参加学生からの感想>

- ・もっともっとたくさんお話を伺いたかった。
- ・出産とキャリアアップをどのようにすれば良いか、本当に不安です。医者は続けたいが家庭も持ちたい…という悩みは多くの女子学生が感じていると思います。3年で臨床の先生とお話できる機会がほとんどないので、今回の講演はとてもためになるものでした。
- ・専門医の資格をいつとるのかなど、具体的なライフプランが少し見えたのでよかったです。一番印象に残ったのは、家庭と仕事の両立や、夫こどもとの関係をどのようなものにするか。どんな道を選ぶにせよ、一生懸命楽しくやることが自分のためにもなるし、家庭のためにもなると気付けた講義でした。

第3回 「育児短時間勤務制度」を利用しています！



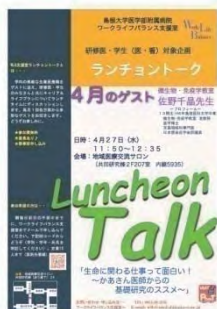
平成23年3月16日
20名参加
(医14名)

美根智子先生
(麻酔科医員)

<参加学生からの感想>

- ・実際に子育てをされながら働く先生のお話を聞くことができ新鮮でした。周りの理解が大切なこと、子どもが小さい頃は育児に大わらわで、仕事はかなり減らさなければならぬこと、両立するには仕事内容と時間のやりくりが重要になるなどと思いました。不器用な自分にできるかな・・・というのが正直な感想です。けれど、週1日でも続けていくのが大切だと思いました。完全にやめてしまうと職場復帰が想像以上に大変そうなので。
- ・漠然とした将来のイメージが少しははっきりしました。面白い機会をありがとうございました。子育てをしながら、専門医を取得した方がいらっやいましたら、お話を伺いたいです。

第4回 「生命に関わる仕事って面白い！ ～かあさん医師からの基礎研究のススメ～」



平成23年4月27日
22名参加
(医16名)

佐野千晶先生
(微生物・免疫学講座准教授)

<参加学生からの感想>

- ・女性として子育てをしながら博士号をとったり、臨床の仕事をするのは大変だなあというのが正直な感想です。でも佐野先生のような方もおられるので、自分も頑張ってみたいなという、励ましにもなりました。先生は忙しい臨床から大学院に行ったきっかけを、ちょっとした休憩をしようと思ったとのように言われていたのですが、なるほどそういう考え方もあるのか...と思いました。
- ・仕事や子育てについて佐野先生の率直な意見が聞けて良かったです。現状を楽しむという言葉は将来にばかり目を向けていた私には足りない考えだなと思いました。また各々に合ったライフプランがあって正解はないのだなと感じました。正解がないからこそ先輩方の意見はとても貴重です。

第5回 「小児科医夫婦2人のワークライフ“アン”バランス」



平成23年5月25日
23名参加
(医18名)

福田誠司先生
(小児科学講座准教授)

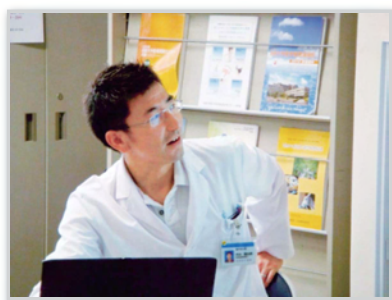
<参加学生からの感想>

- ・福田先生のお話では「相手のキャリア形成の足を引っ張らない」というのは新しい視点でした。このような考える視点をたくさん提示されると有難いと思います。
- ・参加動機はお話をして下さる先生が男性であったことや、一般的に多忙と言われる小児科医の先生がどのように仕事と家庭の両立をしていたのか(あるいはできなかったのか)ということに興味があったからです。ワークライフバランスは勿論のこと、一人の先生がどのようにキャリアを築いて現在に至ったのかについてもとても興味深く拝聴させていただきました。普段、先輩である医師の方々のキャリアなど耳にする機会はなかったので良い時間を過ごせました。

第6回 「人生は短い！仕事か家庭かどっちが大事？」



平成23年6月22日
23名参加
(医18名)



中山健太郎先生
(産科婦人科学講座講師)

＜参加学生からの感想＞

- ・特に、奥様が、出産や子育てで専門医の資格などが途中になってしまい、関西出身で別居されていた、という状況から、今ご夫婦で共通の目標をもち、お互い支え合いながら家庭を築き仕事を頑張られているということに、このような人生設計の仕方もあるのだな、と新鮮に感じました。
- ・医師として上を目指して頑張っていきたい、という気持ちと、家庭を築いていきたいという女性としての気持ちの両方を考えると、将来一体自分はどこでどんなふうに通うのがいいのか、と悩みます。ランチトークは、誰でも参加できる時間帯なのでとてもありがたいですし、このような機会が増えて、学生のときから、仕事の面からだけではなく将来のことをしっかり考えて、行動に移せる人が増えたらいいと思います。

第7回 「子育て・家庭・仕事…時々キャリア ～人生のターニングポイント教えます！～」



平成23年7月13日
19名参加
(看護14名)



勝部久美子看護副師長
(看護部看護教育支援室)

＜参加学生からの感想＞

- ・育児をしながらの大変さや仕事の楽しさについてお話をしてもらえていろいろと働いてからの様子が少し分かりました。
- ・私は今いいなと思うものが多くて悩んでいます。今回のお話をまた参考にさせてもらいながら考えていきたいと思っています。
- ・自分の将来について、どうしたいのか、自分のことなのに、分からなくなっていた面がありました。目標を持ちすぎず、自分が大事にしたいと思うことを忘れず、今を楽しく頑張ろうと思いました。
- ・先輩の貴重な経験談を聞くことができ今後の参考にさせてもらおうと思いました。

第8回 「研修医から見たワークライフバランス」



平成23年9月28日
17名参加
(医11名)



三島千晶先生
(卒後臨床研修センター
2年次研修医)

＜参加学生からの感想＞

- ・特に先生のおっしゃられた「目の前の物事は世界につながっている」という考え方は、漠然とworldwideな仕事がしたいと思っている自分にとって、まさに大事にすべき言葉だと思いました。島根(島根の病院)は、あれがない、これがないなどばかり考えていたので、三島先生のリアルな声を聞いて自分の考え方を変えなければと思いました。医学部は普通の学部と比べ、働きたい所を選べるという点は恵まれていると思いますが、その反面私は選び方が分かりません。なので、女性で初期研修の先生の話は貴重でした。先生の行動力や学生生活の話聞いて自分が情けなくなり、また悔しく思いました。またLTに参加させて頂いてコンプレックスをパワーに変えたいです。

第9回 「子どもも一人の人間(ひと) 子育ての裏技教えます！」



平成23年
10月19日
16名参加
(看7名・医4名)

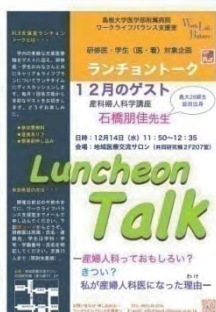


岩田春子看護師長
(看護部入退院管理センター)

＜参加学生からの感想＞

- ・仕事、勉強、育児しながらも、自分のライフスタイルを継続していて、カッコいいと思いました。また、大変さの中に、工夫や周囲の方の協力を支えられながら、楽しみながら人生を過ごされていると感じました。
- ・子育ての裏技、将来、ぜひ実践したいと思います！「ワークライフバランス」をテーマに様々な場で活躍している人たちのお話を聞けることは、とても貴重です。将来、何かに迷った時、きっと助けになると思います。
- ・子育てから進学、仕事など幅広くお話されたので今後の人生設計に生かしていきたいと思えます。

第10回 「婦人科って面白い？きつい？ 私が産婦人科医になった理由」



平成23年
12月14日
21名参加
(医14・看3名)



石橋朋佳先生
(産科婦人科学講座後期研修医)

＜参加学生からの感想＞

- ・産科医のイメージが、出産のため大変だけのイメージがありましたが、周産期、腫瘍、不妊といった分野に分かれていることや、職場内の人たちの雰囲気を知り、大変さだけでなく、楽しさ、その場所で自分が行きたい分野を選ぶといった、働く意味を見つけて働いているということを感じました。自分はこの仕事に向いているのかを考えたりしていましたが、働くことを続けていくなかで、働きながら、自分の役割をみつけたり、変えたりしていけば良いのかなと思えました。働く前に決めなければいけないわけではないのだと思いました。
- ・今回は研修医3年目の方ということで、4年生の私にとってはより身近な話として聞くことができました。産婦人科は忙しいというイメージがあったので、忙しい日と暇な日の比較をしてくれたのはすごく参考になりました。

歓談の様子



■講演会等

1)主催講演会

- 平成22年 7月 6日 平成22年度第1回ワークライフバランス支援室講演会、「”女性医師支援”から”全ての医療スタッフのワーク・ライフ・バランス”への進化をめざして」、瀧野敏子先生(NPO法人イージェイネット 代表理事)出雲市
- 平成23年 3月 4日 平成22年度第2回ワークライフバランス支援室講演会、「勤務継続のための女性医師支援から戦略的女性医師支援へ」、大越香江先生(京都大学医学部附属病院消化管外科)、出雲市
- 平成23年 6月 9日 平成23年度第1回ワークライフバランス支援室講演会、「夢をあきらめないために」、平敷淳子先生(埼玉医科大学名誉教授、国際女医会前会長)、出雲市

2)共催講演会

- 平成23年 1月15日 平成22年度島根県医師会男女共同参画フォーラム、「島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室の取り組み」、津森登志子、出雲市
- 平成23年11月 8日 地域医療支援学セミナー、「子育てしながら楽しむ地域医療」、白石裕子先生(隠岐島前病院)、地域医療支援学講座、出雲市
- 平成23年12月 3日 平成23年度大学病院人材養成機能強化事業に伴う「女性医師のキャリアアップ支援に係る交流会」、島根大学医学部キャリア形成支援部門、神戸市
- 平成24年 2月 4日 平成23年度島根県医師会男女共同参画フォーラム、「島根大学ワークライフバランス支援室の取り組み」、津森登志子、出雲市

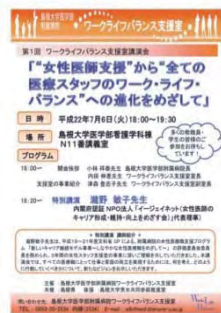
3)卒後臨床研修センターの早朝セミナー

- 平成22年 9月22日 「女性医師支援」から「全ての職員が働きやすい職場」を目指して～ワークライフバランス支援室の取組～、卒後研修センター早朝セミナー、内田伸恵
- 平成23年 8月24日 「医師のキャリアパスとワークライフバランス～ワークライフバランス支援室の取組～」、卒後研修センター早朝セミナー、内田伸恵

4)オープン・キャンパス

- 平成22年 8月 4日 平成22年度島根大学オープンキャンパス(出雲キャンパス)第1回目、内田伸恵
- 平成22年10月17日 平成22年度島根大学オープンキャンパス(出雲キャンパス)第2回目、津森登志子
- 平成23年 8月 7日 平成23年度島根大学オープンキャンパス(出雲キャンパス)第1回目、津森登志子
- 平成23年10月16日 平成23年度島根大学オープンキャンパス(出雲キャンパス)第2回目、内田伸恵

平成22年度 第1回WLB支援室講演会 「“女性医師支援”から“全ての医療スタッフのワーク・ライフ・バランス”への進化をめざして」

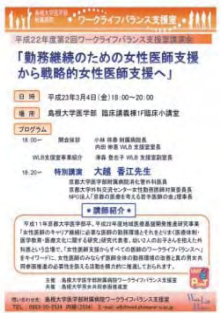


平成22年7月6日
36名参加
瀧野敏子先生
(NPO法人イージェイネット
代表理事)

＜参加者の感想＞

- ・病院のWLBのキーワードで明文化し周知するという点について具体的に教示して下さい、分かり易かった。職員のモチベーション向の取り組みも具体的でこの施設でもできそうだが、現状ではできていない。が、色々工夫することで良い結果につながるということが分かり大変参考になった。
- ・全く想定外のお話が聞けて発想の転換が刺激になった。
- ・「スローキャリア」は「ハッピーキャリア」という考え方に共感できる。難しいことだが、職場環境が整備できればいいし、そうありたいと思った。
- ・具体的な好例紹介でとても勉強になった。島根医学部の取り組みをもっと学内外へアピールできると良い。
- ・働くことが個人の幸せにつながっていくという事を大切にしておられるのにとっても共感を覚えた。新しい世代の物の見方、価値観についての話を聞かせていただき、参考になった。

平成22年度 第2回WLB支援室講演会 「勤務継続のための女性医師支援から戦略的女性医師支援へ」



平成23年3月4日
44名参加
大越香江先生
(京都大学医学部附属病院消化管
外科医員)

＜参加者の感想＞

- ・育児の大変さを知った。今まで無知で無関心であった出産・育児をしながら勤務する女性医師の困難な現実を知り、考えるきっかけができたことに今回参加したことの意義があるように思う。
- ・診療科選択に関して現在いろいろ悩んでいたの、今日のお話はとても参考になりました。また、卒後の専門医取得までのプランについても情報を集めてみようと思いました。
- ・とても参考になるお話でした。自分が進みたい科で、どの様にキャリアアップしていくのか、情報収集が必要だと気付かされました。今後、自分の人生について前向きに考えていきたいです。
- ・二人のお子さまの育児と仕事をパワフルに両立され、かつ「メディカルカフェ@町屋」の企画など色々なことに挑戦しておられる先生のお姿に感銘しました。中でも、医師と地域住民の関係は今後の医療と住民との新しい関係づくりを示唆するものでした。女性医師が働き続けられるよう支援の在り方について考えていきたいと思います。

平成23年度 第1回WLB支援室講演会 「夢をあきらめないために」



平成23年6月9日
133名参加
平数淳子先生
(埼玉医科大学名誉教授、
国際女医会前会長)

＜参加学生の感想＞

- ・医学部に入学して6年目になりましたが、平数先生のお話を聞いて、professionalを持つことの大切さを知り、将来の自分について考え直す機会となりました。
- ・良いmentor、role modelとの出会いは本当に大切だと思います。自分が医学部に入学するきっかけを下された医師の先生が私の第1のrole modelですが、その他にもいろんな人に影響を受けながらがんばっていきなあと思いました。
- ・先生のお話は新聞の切り抜きや3年前にこちらに来られた時の資料などで知っており、お会いしたいと思っていました。実際にお会いしてみて意志力を保ち続けることの大変さを知りました。先生はとても強い心持ちの方で、そういう方が夢を実現されるのだらうと思いました。また自分もそういう人になりたいと思いました。自分の将来について強い考えを持って目標をもって進んでいきたいです。

(6)業績一覧

■学会発表

- 平成22年 9月19日 日本医学放射線学会秋季臨床大会、「女性医師過半数環境における放射線科医のライフスタイル」、内田伸恵、ワークショップ：放射線科医の満足度を高めるために、東京
- 平成22年 11月20日 日本放射線腫瘍学会、「女性放射線腫瘍医の満足度を高めるために」、内田伸恵、女性放射線腫瘍医の今と未来を考えるセミナー、東京
- 平成23年 7月22日 第43回日本医学教育学会大会、「医療人GP事業による『医療職の就労継続に関する医学生意識調査』アンケート結果について」、津森登志子、内田伸恵、広島市
- 平成23年 10月20日 日本医学放射線学会秋季臨床大会、世界で一番放射線科が好き！「女性医師の立場から」、内田伸恵、パネルディスカッション、下関市

■論文

- 澤アツ子、津森登志子、女性研究者・女性医師支援を軸とした島根大学における全学的な男女共同参画への取り組み、医学のあゆみ、234(2):173-181, 2010

■講演・発表等

- 平成22年 9月24日 第7回島根大学医学部附属病院関連病院長会議、「女性医師支援から全医療職のワークライフバランス向上へ」、内田伸恵、出雲市
- 平成22年 10月20日 旭川医科大学二輪草センターイブニングセミナー、「働きやすく学びやすい大学をめざしてー島根大学医学部ワークライフバランス支援室の取組ー」、内田伸恵、旭川市
- 平成22年 12月 1日 第2回中国四国男女共同参画シンポジウム、「持続可能社会に向けての男女共同参画～女性研究者支援モデル事業から見えてきたもの」、ポスター出展、松江市
- 平成23年 2月 3日 平成22年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議「大学病院マネジメントセッション」、「ワークライフバランス支援室の取組ー医療職の就労継続・離職防止から新たなブランド力の確立へー」、津森登志子、つくば市
- 平成23年 2月12日 石川県医師会「女性医師支援セミナー」、「島根大学病院における女性医師支援の取組～女性支援から全職員のワークライフバランス支援へ～」、内田伸恵、金沢市
- 平成23年 2月22日 岩手医科大学医師会講演会、「島根大学医学部ワークライフバランス支援室の取組～学びたい・働きたい病院を目指して～」、内田伸恵、盛岡市
- 平成23年 6月18日 「あすてらすフェスティバル2011」、ポスター出展、大田市
- 平成23年 10月14日～16日 「日本女性会議2011松江」、ポスター出展、松江市
- 平成23年 10月16日 第13回女性研究者技術者全国シンポジウム「女性研究者・技術者の明日を考える」、分科会「(1)女性研究者・技術者の社会貢献」事例呈示、津森登志子、京都市
- 平成23年 11月 5日～ 6日 出雲産業フェア2011、「メディカルスタッフ用マタニティ白衣の開発」、ポスター出展、出雲市
- 平成23年 11月11日 第3回中国四国男女共同参画シンポジウム、ポスター出展、岡山市
- 平成23年 11月26日 「医療・健康福祉領域における講演会」、ポスター出展、出雲市
- 平成24年 1月21日 FUJIYAMA-NET平成23年度女性医師シンポジウム、「島根大学・ワークライフバランス支援室の取組～働きやすく学びやすい医学部をめざして～」、内田伸恵、浦安市
- 平成24年 1月27日 第2回四国女性研究者フォーラム、ポスター出展、松山市
- 平成24年 2月 4日 平成23年度島根県医師会男女共同参画フォーラム、「島根大学ワークライフバランス支援室の取組」、津森登志子、出雲市

第43回日本医学教育学会大会

04-4 医療人 GP 事業による「医療職の就労継続に関する医学生の意識調査」アンケート結果について

Questionnaire survey of students' attitudes toward sustaining their/their partners' medical careers

○津森登志子^{*1、*3}、内田伸恵^{*2、*3}

(^{*1} 島根大学医学部解剖学講座神経形態学, ^{*2} 島根大学医学部がん放射線治療教育学講座,

^{*3} 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室)

【背景】島根大学医学部附属病院では、平成19年度文部科学省の「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」に「新しいキャリア継続モデル事業-しなやかな女性医療職をめざして-」が採択されたのを機に様々な医療職支援事業を推進してきた。3年間の補助金事業による取り組みが学内で評価され、平成22年度以降も「ワークライフバランス支援室」を中心に支援事業を継続している。【目的】本取り組みでは、女性医療職の離職防止・就労継続を図るための方策の一つとして、学部学生からのキャリア教育の必要性を念頭においてきた。そのためには、まず医学生の男女共同参画およびキャリア継続意識の現状把握が必要と考え意識調査を計画した。【方法】3年間の事業期間中毎年連続して医学部医学科の男女医学部生を対象にアンケート調査を実施し、男女間あるいは入学直後(1年)、臨床実習前(3年)、臨床実習開始後(5年)の学年間の意識の差異、および3年間の事業期間中の意識の変化について比較した。【結果】低学年では男女ともに男女共同参画意識や就労継続意識は高かったが、5年生になると、男子学生ではパートナーに家庭責任を依存し、女子学生では育児期には一時離職するという選択が増加した。この傾向は3年間の調査を通して男子学生では変化しなかったが、女子学生では、離職せずに家庭と仕事の両立をめざすという選択が最終年度の5年生になって増加した。【結論】臨床実習を経験して医療職の厳しさを実感すると医学生の男女共同参画およびキャリア継続意識が大きく揺らぐことが明らかになり、早期からの医学生へのキャリア教育・ロールモデル呈示が必要であると考えられた。

医療人GP事業による
「医療職の就労継続に関する医学生意識調査」
アンケート結果について

Questionnaire survey of students' attitudes!
toward sustaining their/their partners' medical careers!

○津森登志子*1, *3, 内田伸恵*2, *3

- *1 島根大学医学部解剖学講座神経形態学,
- *2 島根大学医学部がん放射線治療教育学講座,
- *3 島根大学医学部附属病院ワークライフバランス支援室

平成23年7月22日
第43回日本医学教育学会大会



国立大学法人
島根大学医学部
Shimane University Faculty of Medicine

- ◆ 医学科学生のうち半数は女子学生
- ◆ 研修医の4割近くは女性
- ◆ 医員クラスの若手医師の4割近くは女性

→女性医療職支援を積極的に展開

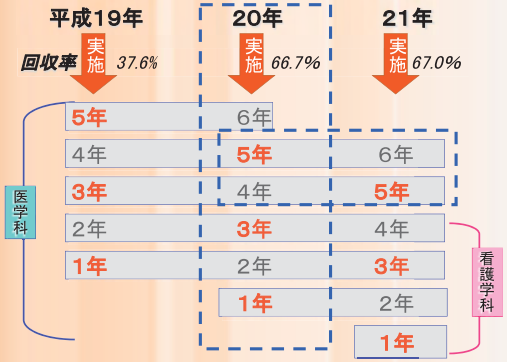
- ◆ 島根県出雲市（人口約147千人）に立地
- ◆ 旧島根医科大学！出雲キャンパス（医学部・附属病院）
- ◆ 県内唯一の医学生教育機関

島根大学医学部附属病院における
女性医療職支援の歩み

H16年	保育所設置のためのWG
H17年	院内保育所開設準備
H18年	女性にやさしい病院WGの設置 院内保育所「うさぎ保育所」開所
H19年	医療人GPに選定 「女性スタッフ支援室」開室
H20年	病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」開室 相談窓口開設
H21年	「うさぎ保育所」の拡張・定員増 GP事業終了
H22年	「ワークライフバランス支援室」に改称 学童一時保育開始
H23年	「ランチョントーク」開始 医学部1年生対象キャリア教育講義開始

医学部職員・学生アンケート（三年連続）
「女性医療職の就労継続」に関する意識調査

アンケートは3年連続で実施



学生への質問内容

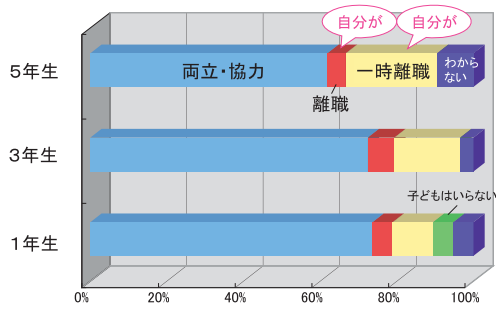
- ◆ 年齢・性別・子供の数・同居家族
- ◆ これまでの進路選択に性別が影響したか
- ◆ 今後の進路選択に性別が影響すると思うか
- ◆ 学生生活で性別による不利・有利を感じるか
- ◆ 将来の自分のキャリア継続とパートナーとの家事・育児分担
- ◆ 男性の育児休業についてどう思うか
- ◆ 女性医療職の家庭と仕事の両立が困難である理由
- ◆ 女性医療職のキャリア継続に必要な支援策
- ◆ 女性スタッフ支援室の事業を知っているか

問: あなたと将来のパートナーとの家事・育児分担に対する考え方について、現在のあなたの考えに最も近いものを1つ選んでください。

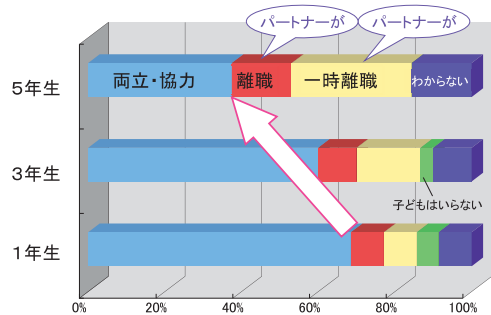
選択肢:

- 結婚後もパートナーと協力して仕事と家事・育児を両立させたい。**両立・協力** 離職しない。
- 結婚後もパートナーには仕事と家庭を両立させたいが、家事・育児分担はあてにしないでほしい。
- 結婚と同時に自分が仕事を辞めて家事に専念する。**離職** ほしい。
- 結婚と同時にパートナーに仕事を辞めて家事に専念してほしい。
- 子供ができたら自分が仕事を辞めて家事・育児に専念してほしい。
- 子供ができたらパートナーに仕事を辞めて家事・育児に専念してほしい。
- 子供ができたら自分が仕事を辞めて家事・育児に専念するが、負担が軽減したら復職する。**一時離職**
- 子供ができたらパートナーに仕事を辞めて家事・育児に専念してほしいが、育児の負担が軽減したら復職してもらいたい。**子どもは持たない**
- 結婚しても仕事に専念したいので子供を持つつもりはない。**わからない**
- 今はまだわからない。

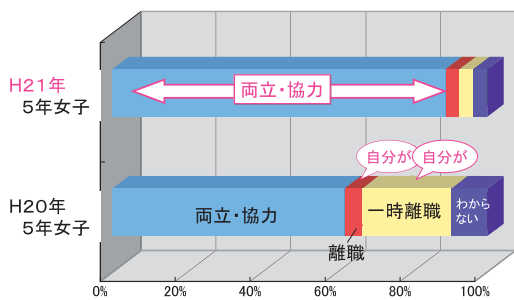
「パートナーとの家事・育児分担に対する考え方」
医学科女子学生の回答 (H20年度)



「パートナーとの家事・育児分担に対する考え方」
医学科男子学生の回答 (H20年度)



「パートナーとの家事・育児分担に対する考え方」
女子学生5年生の回答比較



学生アンケート結果から 見えてきたもの

- ◆ 低学年
! 将来医療職に従事するという意識が低い
- ◆ 高学年
! 臨床実習を経験すると・・・
家事・育児と仕事の両立・協力への自信が揺
- ◆ ライフデザインを考える機会がない



キャリア教育

今後の重点項目 —卒前・卒後教育—

- ◆医療職としてのモチベーションアップ
- ◆仕事と家庭の両立意識の形成
- ◆キャリア&ライフプランニング

研修医・学部学生 (医・看護) 対象企画

- ◆ H23年1月より
学生・研修医と先輩医療職との交流会
「ランチョントーク」 (毎月1回開催)
- ◆ H23年度より
総合科目 (医・看護1年生選択科目)
の1コマをキャリア教育として企画担当



島根大学医学部附属病院

ワークライフバランス支援室の取り組み

医療職の就労継続・離職防止から新たなブランド力の確立へ

○津森登志子^{1)、3)}、内田伸恵^{2)、3)}、安友政男⁴⁾、片寄 雅朋⁴⁾

- 1) 島根大学医学部解剖学講座神経形態学、2) 同がん放射線治療教育学講座
3) 同附属病院ワークライフバランス支援室、4) 同医学部総務課

筆頭演者の e-mail : tsumori@med.shimane-u.ac.jp

1. 【はじめに】

島根大学医学部附属病院は、平成 19 年度文部科学省「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」に本学呈示プログラム「新しいキャリア継続モデル事業-しなやかな女性医療職をめざして」が採択されたのを機に「女性スタッフ支援室」を設立し、3年間の事業期間に様々な医療職支援事業を推進してきた^{1),2)}。事業終了後の平成 22 年度から、同室は「ワークライフバランス支援室」と改称して附属病院の一施設として配置され、医療職のみならず医学部および医学部附属病院で働く全職員が、各人の様々なライフステージに応じた多様な働き方を選択・実現できるような環境整備を支援する部署として活動を継続している。今回は本支援室の取り組み内容と成果について報告する。

2. 【事業推進体制】

平成 22 年 11 月現在の支援室は、室長、副室長各 1 人（それぞれ臨床医学系講座教授と基礎医学系准教授による兼任）、事務補佐員 1 人、技術補佐員（看護師・保育士）4 人、短時間勤務スタッフ 6 人（看護師）に加え、島根大学男女共同参画推進室との連携事業³⁾により派遣された相談窓口カウンセラー（臨床心理士）2 人で構成されている。さらに、支援室の協力者として医学部・附属病院内の各部署から 20 人の職員を「支援員」として配置し、室業務を円滑に推進するための緊密なネットワークを構築している。

3. 【事業内容と実績】

本支援室の事業は、1) 情報発信、2) カウンセラーによる相談窓口、3) 保育支援、4) キャリア教育、5) フレキシブルな勤務の紹介・提供から成り立っている。支援対象は、性別に関わりなく常勤・有期雇用も含めすべての職種の職員であるのはもちろん、相談窓口・保育支援・キャリア教育などは本学学生（医学科・看護学科の学部生および大学院生を含む）も対象としている。

1) 情報発信：ワークライフバランス支援室ホームページ（右図）や月刊メールマガジン

（全職員に配信）を通して、室活動の PR、仕事と家庭の両立支援制度の周知や意識啓発のためのロールモデル呈示を行っている。

2) カウンセラーによる相談窓口：カウンセラーが週 3 回来室し、様々な悩み・不安解消のため相談窓口を開設している。開設時から平成 22 年 10 月末までのべ相談件数は 266 件（職員：161 件、学生：105 件）にのぼる。本窓口では、カウンセラーが相談者の上司（あるいは指導教員）や該当部署とのコンサルテーションを緊密に行って相談者を多方面から



サポートすることにより、特に看護職員の離職防止や学生の就学継続に能動的な役割を担っている。3) 保育支援：支援室内に整備した保育室「ニコニコうさぎ」で、看護師・保育士 2 人体制による病児・病後児保育を実施している。開設時から平成 22 年 10 月末までのべ登録者は 88 人、のべ利用者は 411 人にのぼる。利用者の職種も教員、医員、看護職員、医療技術系・事務系職員、大学院生と多岐にわたる。院内保育所で発症した病児を勤務中の職員に代わって本院小児科に受診させ、そのまま病児・病後児保育室で預かる代理受診制度も確立した（利用実績：4 件）。平成 22 年 10 月からは新たに学童一時保育（小学 1～4 年生対象）を開始し、放課後や学童クラブ終了後の時間帯の保育サポートにも力を入れている（利用実績：7 件）。4) キャリア教育：新人看護師・研修医・学部学生を対象とした講演会などを開催し、医療人としてのモチベーションを高め、現場定着、離職防止を図るための試みを実施している。5) フレキシブルな勤務の紹介・提供：短時間で柔軟な勤務時間設定が可能なスタッフとして離職看護師や保育士を雇用し、病児・病後児保育スタッフの他、本院小児科での病棟保育、中央検査部採血担当などの仕事を提供している。これらのスタッフによる勤務は、患児の療養の質の向上や保護者負担の軽減、検査部での採血待ち時間の大幅短縮など、本院での患者サービスに大きく寄与している。

5. 【事業効果】

本医学部・附属病院では、平成 18 年の院内保育所開所、翌年の女性スタッフ支援室の病児・病後児保育開始から現在のワークライフバランス支援室等の活動を通じて、出産後も安心して勤務を継続できる、家庭と仕事の両立が可能な職場としての認識が定着しつつある。平成 21 年度の育児休業取得者 59 人（医療系職員：49 人）のうち出産後の離職はわずか 1 人で、ほとんどが復職を果たしている。この年度の育児休業取得者の中には、医学部・附属病院としては初めての男性職員 3 人（医師 2 人、事務系職員 1 人）も含まれ、今年度にはさらに医療技術系男性職員 1 人も加わった。このことは、支援室の様々な活動を通して、ワークライフバランスや男女共同参画の意識が男性職員も含めて確実に学内構成員に浸透してきたことを表している。さらに、支援室の相談窓口には個人的な悩み相談だけでなく、職場の環境改善に関する意見や具体的な提案も寄せられるようになってきた。支援室の存在は、現場の職員のニーズをきめ細かく収集しながら部署横断的に連携しつつ事業展開するという新しい活動スタイルのセクションとして、学内でも注目されている。

6. 【まとめと今後のミッション】

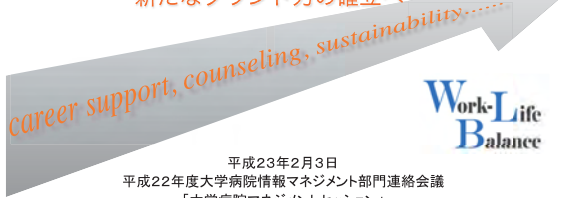
医学部・附属病院で勤務する職員のワークライフバランスが保たれ、満足感が高いということは、患者の心身の健康を回復させる場・医療の担い手を育成する場としての質を確保することに直結する。今後当支援室は、職員の就労継続・離職防止というこれまでの目標に加え、働きやすく学びやすい医学部・附属病院として内外に実績をアピールすることにより、医学生・看護学生・研修医・メディカルスタッフ・教職員を惹き寄せる島根大学病院のブランド力の核となることを目指している。さらに、地域の病院や自治体、医師会と連携して県内の医療職のワークライフバランス改善の機運を高めることにより、離職防止、ひいては地域医療再生の一助としたい。

【参考文献】

- (1)小林祥泰：“しなやかな女性医療職をめざして” をモットーにした人材確保. 新医療, 9月号: 142-145, 2008.
- (2)内田伸恵：大学病院：女性医師雇用対策を中心に. 臨床放射線, 54(4):483-490, 2009.
- (3)澤アツ子, 津森登志子：女性研究者・女性医師支援を軸とした島根大学における全学的な男女共同参画への取り組み. 医学の歩み, 234(2)：173-181, 2010

島根大学医学部附属病院 ワークライフバランス支援室の取り組み

医療職の就労継続・離職防止から
新たなブランド力の確立へ

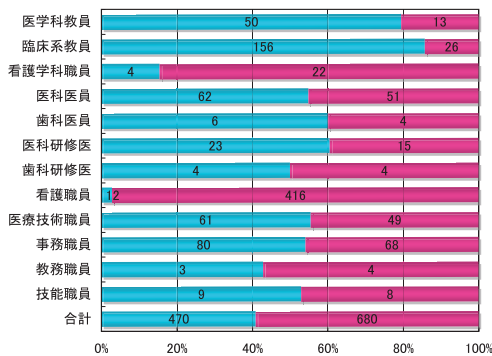


平成23年2月3日
平成22年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議
「大学病院マネジメントセッション」

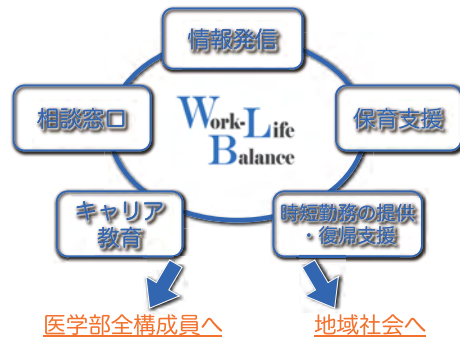
島根大学医学部附属病院における 女性医療職支援の歩み

- 2004年 保育所設置のためのWG
 - 2005年 院内保育所開設準備
 - 2006年 女性にやさしい病院WGの設置
院内保育所「うさぎ保育所」開所
「働きやすい病院評価」認証取得
 - 2007年 医療人GPに選定
「女性スタッフ支援室」開室
 - 2008年 病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」開室
相談窓口開設
 - 2009年 「うさぎ保育所」の拡張・定員増
GP 事業終了
 - 2010年 「ワークライフバランス支援室」開設
学童一時保育開始
- 2008年 医員の待遇改善
医員・研修医の年俸制
医員の**育児短時間勤務制**
(週3・5日勤務可能)
- 2010年 就業規則の改正
雇用期間**1年未満の常勤でも**
・育休取得可能
・短時勤務可能

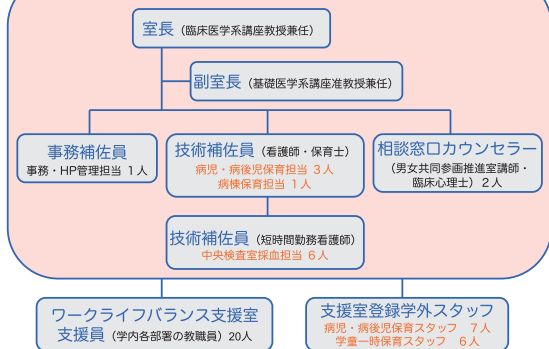
島根大学職員男女比 H22年4月現在



ワークライフバランス支援室 — 5つの事業 —



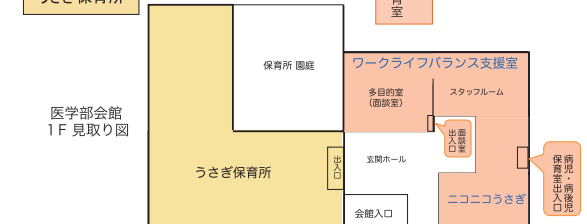
ワークライフバランス支援室 事業推進体制



医学部会館



院内保育所 との連携



情報発信

◆ HPの更新・全職員への月刊メルマガ送信

- ・ イベント開催のお知らせ
- ・ 両立支援情報の提供
- ・ ロールモデル呈示 「両立ババママインタビュー」

◆ オープンキャンパスへの参加



学内構成員へ支援室活動の周知
学外へのPR → 教職員応募者・医学生・医学部受験者へ

保育支援



島根大学医学部附属病院 病児・病後児保育室

ニコニコうさぎ

◆ 病児・病後児保育室の運営

事前登録制 定員 6名

対象：0歳児（生後8週間以上）～小学3年生まで

利用時間：平日午前8時～午後6時まで（午前7時半より電話受付）

保育料：2000円/日（給食あり！院内保育所に委託）

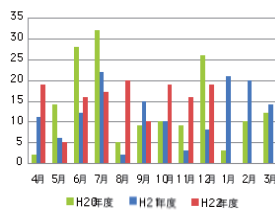
本院小児科付き添い受診（院内保育所入所児対象） 2000円/回

保育支援

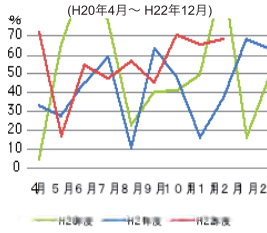
病児・病後児保育の利用状況

事前利用登録者数 90人（2010年12月末現在）
のべ利用者総数 446人（開設以来2010年12月末まで）

利用のべ人数の推移
(H20年4月～H22年12月)



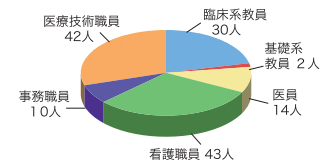
保育室の稼働率
(H20年4月～H22年12月)



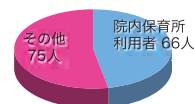
事前登録者の内訳
(H22年12月末現在)



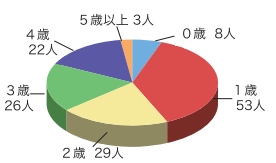
利用者の職種 (H22年4-12月末)



利用者の内訳
(H22年4-12月末)



保育病児の年齢 (H22年4-12月末)



保育支援

◆ 学童一時保育の運営・H22年10月開始

「学童の壁」対策
看護職から支援室へ寄せられた要望に基づいて立ち上げ

対象：小学1～4年生まで

利用時間：平日午後4時30分～午後8時まで

保育場所：支援室多目的室

保育料：3000円/時

保育スタッフ：保育サポーター
"「保育サポーター養成講座」修了者
(H22年7月開催)

利用実績：11件 (H22年10-12月)



短時間勤務の提供・復帰支援

◆ 病児・病後児保育室スタッフ、登録シッター

◆ 病棟保育

小児科病棟での保育 → 患児の療養の質の向上や保護者負担の軽減に寄与

◆ 検査部での短時間勤務

中央検査部採血室で採血担当として勤務 → 検査部での待ち時間の短縮に寄与

病児・病後児保育室の勤務体制

2人体制



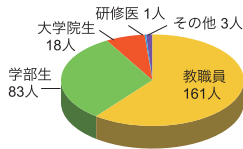
相談窓口

全教職員・学生のための相談窓口

- ◆ 島根大学男女共同参画推進室との連携事業
- ◆ カウンセラー2人が週3回来室
- ◆ 利用総数 297件 (開設からH22年12月末まで)

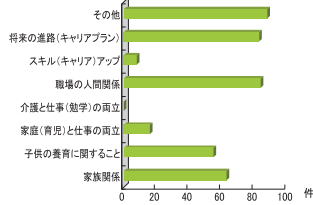
相談者の内訳

(H20年10月~H22年10月末)



相談内容の内訳

(H20年10月~H22年10月末)



相談窓口

カウンセラーの活動

- ◆ 関係各部署とのコンサルテーション
- ◆ 看護部との連携による離職防止活動・新人研修参加
- ◆ 学生支援に関わる懇談会開催
→ 医学・看護学科教員との情報交換

相談窓口PRカード

カウンセラーによる相談窓口

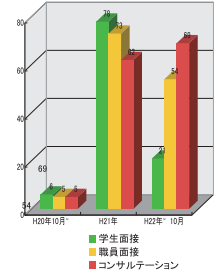
お問い合わせ・申し込みは・・・

電話: 0853-20-2534 内線(2534)
E-mail: wlb@med.shimane-u.ac.jp

ワークライフバランス支援室では、「働きやすく学びやすい」職場作りにつながるあなたのアイデアやご提案もお待ちしております！

最近の相談傾向・・・
個人的な悩み相談だけでなく、
就労環境改善につながる提案・要望も！

カウンセラーの活動内訳



キャリア教育

今後の重点項目

— 卒前・卒後教育 —

- ・ 医療職としてのモチベーションアップ
- ・ 仕事と家庭の両立意識の形成
- ・ キャリア & ライフプランニング

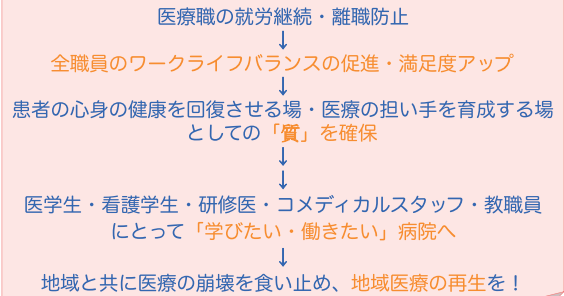
研修医・医学／看護学生対象企画

- ◆ H23年1月より
学生・研修医と先輩医療職との交流会
「ランチョントーク」(毎月1回開催)
- ◆ H23年度より
医学概論 (医・看1年生対象・必修科目)
の一コマを担当予定



島根大学医学部 附属病院 ワークライフバランス支援室

支援室の活動目標



平成23年度 事業紹介

皆が動きやすく学びやすい医学部・附属病院を目指し、出雲キャンパスの関係各部署と密接に連携を取りながら活動しています。



島根大学医学部附属病院
ワークライフバランス支援室

〒693-0024 島根県出雲市塩冶町89-1
TEL : 0853-20-2534
E-mail: wlb@med.shimane-u.ac.jp

情報発信

ワークライフバランス支援室ホームページの更新やメールマガジン（月1回、全職員向け）の配信を通して、室活動のPR、講演会など各種イベントのご案内などの他、学内の両立支援制度の周知や意識啓発のためのロールモデルの紹介を行っています。病児・病後児保育室（ニコニコうさぎ）の事前登録や相談窓口の利用申し込みフォームもホームページからダウンロードできます。

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb/>



相談窓口

週3回2名のカウンセラーが来室し、学生・教職員の様々な悩み・不安解消のため、親身になって相談に応じています。個人的な悩みの他にも、職場環境の改善につながる意見、提案も受付ています。カウンセラーの業務は相談受付の他にも、看護部と連携したストレスマネジメント支援、学生相談に関わる教職員への支援も積極的に行っています。

相談窓口 PRカード



相談窓口面談室

キャリア教育

新人看護師・研修医・学部学生を対象とした講演会・座談会などの開催を通して、医療人としてのモチベーションを高め、現場定着、離職防止を図ります。

平成23年1月から、昼食を共にしながら先輩医療職と学生や研修医が交流する企画「ランチョントーク」を毎月実施しています。多彩なゲスト出演に参加者から毎回好評です。



ランチョントークの様子

開催PRポスター

平成23年度からは学部生への初期教育として、医学・看護学科1年生対象の総合講義に組み込んだ講演会を企画しました。今年度は6月9日、埼玉医大名誉教授・国際女医会前会長、平敷淳子先生を演者に迎えて「夢をあきらめないために」というタイトルで開催し、113人が受講しました。



平敷先生講演会の様子

時短勤務の提供

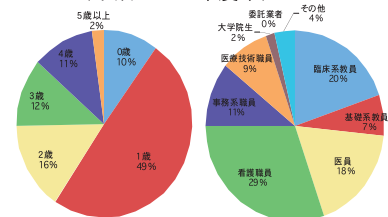
看護師や保育士の資格を活かした家庭と仕事の両立のためのフレキシブルな勤務の紹介や提供を行います。

附属病院の小児科病棟での病棟保育士として、また中央検査部採血室での採血担当者として短時間勤務を提供し、附属病院のサービス向上にも貢献しています。

保育支援

病児・病後児保育室「ニコニコうさぎ」の運営を行っています。看護師・保育士の2名体制で、お子様の病気の回復に配慮したきめ細かい保育が好評です。平成20年度の開設から現在までのべ利用者数も500人余に達しました。利用者の職種も、医療系職員だけでなく教員・事務系職員・大学院生など多岐にわたっています。

病児・病後児保育の利用状況（平成20～23年度末）



保育児童の年齢 利用者（保護者）の職種

平成22年度からは、本学が業務を委託する事業者の職員の方も利用することができるようになりました。院内保育所や附属病院小児科と連携した代理受診制度も確立しています。

平成22年10月からは、小学校下校後や学童クラブ終了後の時間帯に対応して、教職員のお子様（小1～4まで）を支援室内で預かる学童一時保育も開始しました。



「ニコニコうさぎ」保育室

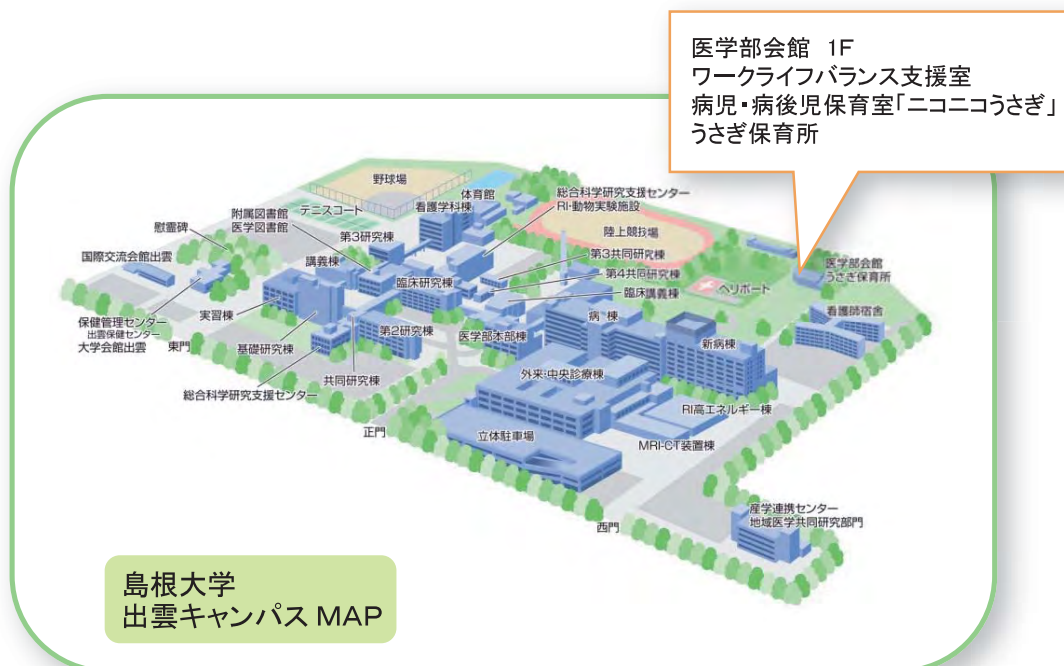
■各種メディア取材記事等

平成22年 8月27日	小林祥泰、内田伸恵、NPO法人「イージェイネット」メールマガジン第9号
平成22年 9月28日	内田伸恵、秦美恵子、NPO法人「イージェイネット」メールマガジン第10号
平成23年 2月	内田伸恵、「放射線腫瘍学領域における女性専門職のencouragemet を」、NLだより、トップコラム、N0.398
平成23年 1月27日	ランチョントーク、山陰中央新報
平成23年 2月 4日	内田伸恵、ひと、ランチョントーク、山陰中央新報
平成23年 2月28日	津森登志子、NPO法人「イージェイネット」メールマガジン第15号
平成23年 3月31日	津森登志子、NPO法人「イージェイネット」メールマガジン第16号
平成23年 2月24日	地域医療のあす、山陰中央新報
平成23年 8月17日	マタニティ白衣開発、毎日新聞
平成23年 8月17日	マタニティ白衣開発、中国新聞
平成23年 8月17日	マタニティ白衣開発、読売新聞
平成23年 8月17日	マタニティ白衣開発、山陰中央新報
平成23年 8月17日	マタニティ白衣開発、島根日日新聞
平成23年 8月17日	マタニティ白衣開発、朝日新聞
平成23年 8月16日	マタニティ白衣開発、NHK「しまねっと845」
平成23年 8月30日	津森登志子、NPO法人「イージェイネット」メールマガジン第21号
平成23年 9月 7日	マタニティ白衣開発、文教速報
平成23年10月 1日	マタニティ白衣開発、島根大学病院ニュース「しろうさぎ」第26号
平成23年10月	マタニティ白衣開発、「広報しまだい」10月号
平成24年 1月 1日	「女性医師のキャリアアップ支援に係る交流会」共催、島根大学病院ニュース「しろうさぎ」第27号
平成24年 2月28日	津森登志子、NPO法人「イージェイネット」メールマガジン第27号

■編集後記

「女性スタッフ支援室」の時代から出雲キャンパスでの家庭と仕事の両立支援に関わる仕事に関係して5年目、ここに「ワークライフバランス支援室」の実績報告をまとめることになり感慨もひとしおです。この間私たちは小さな大学ならではのフットワークの軽さを存分に活かしながら志の高いスタッフたちとともに様々な新しい試みにチャレンジし、その多くを実現してきました。その中で学んで来た大切なこと一職種を超えた職員同士の協働、face to faceでの情報共有などは、大学人としての今後の私にとって大きな心の糧になるものです。これまでのみなさまのご理解とご協力に心より感謝の意を表して編集後記と致します。ありがとうございました。

(WLB支援室・副室長 津森登志子)



Work-Life Balance

—働きやすく学びやすい医学部・附属病院をめざして—

島根大学医学部附属病院 ワークライフバランス支援室

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
TEL (0853)20-2534
E-mail wlb@med.shimane-u.ac.jp
URL <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/wlb/>